［**成果情報名**］**スズランエリカに発生する根腐病**

［**要約**］スズランエリカに発生する株の萎凋・枯死症状はピシウム菌による根腐病である。鉢用土の過湿を避け、罹病株を早期に除去することで被害は軽減される。

［**担当**］山梨総農セ・栽培部・作物病害虫科・舟久保太一

［**分類**］技術・参考

［**課題の要請元**］

総合農業技術センター技術普及部

［**背景･ねらい**］

スズランエリカでは、根腐れによる株の萎凋・枯死が発生し、問題となっている。そこで、その原因を究明するとともに発生要因を解明し、被害の軽減を図る。

［**成果の内容･特徴**］

１．根腐病の症状は、初めに株の先端がしおれ、その後、株全体の色が褪せ、根は暗褐色に　腐敗し、枯死に至る（表１、図１）。

２．株の萎凋・枯死症状はピシウム菌による病害（スズランエリカ根腐病）である。

３．ピシウム菌は、水を介して伝染するため鉢用土が過湿にならないような水管理を行う。また、散水や雨により飛散伝染するため、伝染源となる罹病株は早期に除去する（図２）。

４．根腐病の発生は、４月から１１月にかけて長期間に渡る。育苗初年目から発生する場合　もある。

［**成果の活用上の留意点**］

１．根腐病の原因であるピシウム菌は多くの花き類や野菜類に感染する多犯性の病原菌であるため、病害が発生した場合は、他の品目に感染しないよう注意する。

２．ピシウム菌は耐久器官を形成し資材に残存するため、資材を再利用する場合は消毒を行　う。

［**期待される効果**］

１．スズランエリカの根腐病の被害が軽減し、安定生産に寄与できる。

［**具体的データ**］

表１　根腐病の症状

発症部位	症　　状
外 観	・最初は株の先端のしおれがみられ、次に株全体の色が褪せ、ついには株全体が枯死する。 ・苗から大型の株まで発生する。
根	・暗褐色に腐敗する。根が腐敗するため、株のしおれ・枯死がおこる。 ・外観症状を呈する株の細根はほとんど腐敗・脱落する。太い根も全体的に褐変している場合が多い。 ・ピシウム菌は根のみに感染し、地上部には感染しない。褐変した根を顕微鏡で観察すると、多くの菌糸や球形の卵胞子などの形成がみられる。 ・ピシウム菌の感染は短時間（１２～２４時間程度）で成立する。 ・感染から発病（外観症状の発現）までの期間は、接種試験（病原菌に好適条件下）では　、１４日～１ヶ月以上を要した。
維管束	維管束の褐変は認められない。

図１　根腐病（右は健全株）

①②①④③①
①②②◎③①
◯①③④③①

◎：汚染株（鉢）
①～④:○内の数字は 4 反復の発病株数
○：発病が確認されなかった株（鉢）

図２　散水や雨による病原菌の飛散
汚染鉢（病原菌接種）の周りに無菌培土に苗を植え付けた鉢を並べた。
露地での暴露期間　７月下旬～９月下旬
調査時期・方法：１１月中旬に根から菌の分離

［**その他**］
研究課題名：スズランエリカに発生する諸症状の原因究明と防除対策
予算区分：県単
研究期間：2006～2009 年度